

# 神戸大 水処理膜、韓台の大学と研究

神戸大学先端膜工学センターは台湾・中原大学、韓国・漢陽大学と、海水の淡水化や排水処理などに使う膜技術の共同研究を始める。水中の微生物

や有機物による性能低下を防ぐ技術や劣化の予測手法、新しい材料を使うなどが高性能膜などを研究する。膜技術は水環境によって最適な材料や形状に進み、研究も欧米と遜色ない水準という。特に中原大は水メジャーの仏ヴェオリア・ウオーターや米化学大手ダウ・ケミカルと共同研究を進行中。膜研究専用の研究棟が3つあり、大規模な実験設備も多い。神戸大は

や有機物による性能低下が変わるため、アジアの風土に適した膜技術を開発する。

世界で水資源が不足する中で、海水を淡水化する逆浸透膜、水道水を浄化する中空糸膜、工場廃水をろ過する分離膜など、膜技術への関心は急速に高まっている。